

再度問う 収支計画も出ない佐白温泉施設建設 見直す勇気を

大垣照子 議員

町長 町の赤字は、私をはじめ
執行部が負います



問 3月議会に続き問う。佐白地域活性化拠点整備は、昨年6月議会にも要望が出されているが、温泉施設とは書かれていない。文書化されているのか。

答 堀江地域振興課長 文書化したものは昨年11月、奥出雲町長と地元の皆様との連名で県への要望書です。

問 見せていただきたい。財源について3月議会の答弁では、「過疎債と県の振興資金で確実に確保できる見込み」とされているが、総額5億円という莫大な借金だ。確実に確保できたのか。

答 先般、県との協議の結果、過疎債充当の了解をいただいています。

問 今議会初日に、ボーリング費用の契約8千820万円が可決されたが、総額5億円に対する過疎債なのか、1点1点についての過疎債の適用なのか。県の振興資金はどうなるのか。

答 堀江地域振興課長 過疎債の適用には各規定があり、1つつ審査を受けますが、この工事全体を過疎債適用で要望しています。

問 財源は何を適用するのか、それぞれ出していたきたい。建設費の返済計画は、1年にどの程度立てているのか。

答 過去の借金の返済や新たに工事事業の起債（借金）の償還等、見ながら財政運営を行いたい。

問 収支計画もなくこの事業について答えられないということか。そうなる負担・返済について住民の不安は随分大きくなる。個々に掛った費用と返済があつてしかるべきで、個々に出せないということは理解できない。

答 全体としての起債管理、公債管理、償還計画の中で考えるべきと思っています。

問 佐白温泉施設建設は、住民の皆さんから大きな反響があり注視されている。建設費の返済財源を

議会にも明らかにされたい。これまで、赤字が出れば町が年間500万円から1千万円補填するとの答弁。赤字補填は、大きな無駄使いだ。

答 事業の趣旨や財政計画から応分の町負担は必要と思っています。

問 収支計画が出せないなら、住民負担は大きくなり喜べない。ならばここで見直す勇気が必要。赤字が出た場合、その責任は住民転嫁しないで行政サイドが負うべき。考えを伺う。

答 500万から1千万の赤字が出る施設は、町負担で維持していきたい。

問 財政事情に不安がある。所得も税収も減っている。過疎債も国民全体の借金に変わりはない。赤字の責任は、執行部が取るのか再度伺う。

答 町財政全体の赤字は、私をはじめ執行部が負います。

問 町全体の借金は執行部が負うとのこと。しっかり受けとめる。また、運営主体は、地元のNPO法人を組織し指定管理を予定との公式答弁が確実か。

答 今年中に県へ設立申請を行う予定と伺っています。

問 日本の子宮頸がんの発症者は、1万5千人で

内、推定約3千500人が死亡。本県でも10年前と比較し2〜3倍に増加。本町の受診率は。

答 尾方健康福祉課長 本町の子宮頸がん検診率は、平成19年度で18・1%で563人の方が受診。

問 子宮頸がんの発症原因は、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染とされ、ワクチン接種による抑制効果は70%以上。細胞診とHPV検査の併用で、子宮頸がんの死亡率を大幅に下げることができるといふ。若い世代での検出率が高くなっており、女子児童生徒へのワクチン接種を急ぐ必要がある。まず、人権教育と保護者や住民への周知を。

答 尾方健康福祉課長 他の性感染症とは区別し、体を守る検診教育の中で行いたい。

問 このワクチン接種は、十分な免疫力をつけるために3回必要。費用は、1人約5万円掛るため女子児童生徒には、全額公費負担を。

答 中学3年生の卒業時、全額町費負担による接種方針で、9月議会に補正予算を計上したい。

問 今後については、今後とも継続する考えです。